雑誌「医学教育」について[*1]

鈴木　淳一[*2]

「医学教育」は，昭和45年2月に1巻1号が刊行されて本年で17巻を数える．1巻1号以来15年間，同じページ数で，同じ6冊ずつを刊行してきた．一見進歩がないとも見られようが，内容には着実な進歩があり，論文のタイトルを通巻通覧していただくだけで，すぐに見てとれるほどである．

シドニーのRTTC (Regional Teacher Training Center) における医学医療教育者のためのワークショップへわが国からの参加が始まったのが昭和48年，それ以来のシドニーワークショップ参加の影響の推移を「カリキュラム研究会の記録」にみることができる．すぐ翌年の昭和49年に，富士教育研修所における医学教育者のためのワークショップが始まった．その成果は大きく医学教育誌に反映してきた．

カリキュラム研究会のリスト（表1）をご一覧いただきたい．第1回研究会の記録が欠けているのは残念であるが，これはいわば打合せ会で，その後の計画などについての相談会に終ったと記憶している．

本誌は，「特集」中心の編集方針を持ち続けてきた．1982年(13巻)から1986年(17巻2号)までの特集および連載のテーマを書き出してみた（表2）．

特集は，各号を特徴づけるものとして，雑誌「医学教育」には必要なものであったと考えるが，一方，一般投稿に大へん優れたものがあるので，それを圧迫しない方針を同時に堅持してきた．具体的には，各巻に1ないし2号は特集なしで一般投稿原稿のみになった．

「連載もの」をリストアップしてみた（表3）．たとえば，教育媒体使い方シリーズは，本学会常置委員会の1つ教育技法委員会が企画し進めているもので，医学教育という特殊性を踏まえての教育技法を，教師の立場と学生の立場を両面から捉えての内容に特徴があるものと考えていただきたい．

本学会の委員会とワーキンググループは，その活動の一環として，本誌の特集など編集の中心として活躍してきた．それぞれの委員会の委員長，ワーキンググループの主任の方々が編集委員会を組織していて，その目的を果してきた．

今後，会員諸氏のご協力・ご提案などをいただいて，内容の充実とともに号数や，ページ数の増加を実現していきたいと考える．

---

*1 On "Medical Education".
キーワーズ：医学教育・カリキュラム研究会

*2 SUZUKI, Jun-Ichi 帝京大学医学部耳鼻咽喉科学教室，日本医学教育学会編集委員会委員長

表 1　カリキュラム研究会（第２回～第49回）

第２回（1972年）鹿取　信（北里大学）
「北里大学医学部のカリキュラム—系別総合教育を中心に」
第３回（1972年）織畑　秀夫（東京女子医科大学）
「卒前教育における新しいカリキュラム」
第４回（1972年）Ivan N. Mensh（UCLA）
「米国の医学教育の現況」
第５回（1972年）米　勒（北京医学院）
「中国における医学教育の現状について」
第６回（1972年）落合京一郎（埼玉医科大学）
「医学教育と行動科学」
第７回（1972年）岡島　道夫（東京医科歯科大学）
「医学教育と医療の中における評価」
第８回（1972年）楢橋　敏夫（Duke 大学）
「Duke 大学医学部における医学教育カリキュラム」
第９回（1973年）Harold J. Simon（San Diego 大学）
「San Diego 大学医学部のカリキュラム」
第10回（1973年）吉岡　昭正（順天堂大学）
「医学教育における評価（その２）」
第11回（1973年）Caroline E. Hulme（Oxford 大学）
「イギリスにおける医学教育の現状」
第12回（1973年）H. Baitsch（Ulm 大学）
「人類遺伝学—研究の発展と医学教育における役割」
第13回（1973年）中山健太郎（東邦大学）
「医学教育における評価（その３）」
第14回（1973年）日野原重明（聖路加国際病院）
「The Problem-Oriented Medical Record System」
第15回（1973年）西岡久寿弥（国立がんセンター）
「北京医学院における教育と研究」
第16回（1973年）館　正知（岐阜大学）
「シドニーにおける Teacher Training のワークショップに参加して」
第17回（1973年）吉岡　昭正（順天堂大学）
「シドニーの医学教育ワークショップに参加して」
第18回（1974年）尾島　昭次（岐阜大学）・鈴木　淳一（帝京大学）
「シドニーにおける WHO ワークショップ "Curriculum Development" 参加報告」
第19回（1974年）宮本　裕（経営コンサルタント）
「会議のもち方について」
第20回（1974年）堀　原一（筑波大学）・田中　勧（国立東京第二病院）
「シドニーにおける WHO ワークショップ "医学教育における評価" 参加報告」
第21回（1974年）Robert S. Northrup（Hawaii 大学）
「日米医学教育の比較」
第22回（1974年）I. H. Wagman（Davis 医科大学）
「アメリカの医科大学の入学者選抜制度と Davis 医科大学のカリキュラム」
第23回（1974年）Kwang Lee Dow（Melbourne 大学）・David R. Hunt（St. George 病院）・David Macfadyen（New South Wales 大学）
「医学教育における小人数教育について」
第24回（1974年）岩淵　勉（佼成病院）・山下文雄（久留米大学）
「教育学習方法に関する WHO 国際ワークショップ報告」
第25回（1974年）堀　原一（筑波大学）
「McMaster 大学の自己学習方式と Illinois 大学の Teacher Training のプログラム」
第26回（1974年）C.D. Cook（Yale 大学）
「Yale 大学における医学教育」
第27回（1975年）John Z. Bowers（Josiah Macy Jr. 財団）
「日本と世界の医学教育・最近の状勢」
第28回（1975年）Howard S. Barrows（McMaster 大学）
「McMaster 大学の医学教育カリキュラムの科学的根拠」
第29回（1975年）George E. Miller（Illinois 大学）
「教育評価についてのセミナー」
第30回（1975年）Barry G. Wren（New South Wales 大学）
「The Relevance of a Curriculum」
David R. Hunt（New South Wales 大学）
「Trends in Programme Evaluation」
第31回（1976年）木村　登（久留米大学）
「最近のアメリカの医学教育」
第32回（1976年）吉田　修（京都大学）・戸倉　康之（国立栃木病院）
「シドニーにおける WHO "評価" に関するワークショップ参加報告」
第33回（1976年）Alexander Leaf（Harvard 大学）
「Harvard 大学医学部の新しいカリキュラム」
第34回（1976年）Joel H. Broida
「日本の医療および総合的な医学教育のための助言」
第35回（1976年）林　茂（川崎市立川崎病院）
「WHO ワークショップ "Instruction Design" 参加報告」
第36回（1976年）Kwang Wook Ko（Seoul 大学）
「ソウル大学における医学教育と NTTC」
第37回（1979年）福間　誠之（京都第一赤十字病院）
「WHO/RTTC Intercountry Workshop "Faculty Development" に参加して（その１）」
高石　昌弘（国立公衆衛生院）
「WHO/RTTC Intercountry Workshop "Faculty Development" に参加して（その２）」
第38回 西　三郎（国立公衆衛生院）・下田　智久（厚生省）
「Health Services Manpower Development Workshop に参加して」
第39回（1979年）R.D. Tschirgi（California 大学 San Diego 医学部）

表 1 つづき

「米国と英国における医学教育の今日の問題」
第40回（1980年）Gabriel M. Danovitch（UCLA）
「イスラエル Ben-Gurion 大学医学教育の印象」
第41回（1982年）John Z. Bowers（Rockefeller 財団）
「最近の米国医学教育についての２，３の問題」
第42回（1982年）Ken Cox（WHO/RTTC）
「臨床的実験行為の評価」
第43回（1983年）曽我部博文（自治医科大学）
「講義をしない医学教育 —Newcastle 大学医学部の例」
第44回(1984年)Berislav Skupnjak・Miroslav Mastilica
「ユーゴスラビア—国の概要，保健制度，医学教育，および日本との共同研究」
第45回（1985年）Tamas Fülöp（WHO）・Jacobus M. Greep（Limburg 大学）・Alan Sheldon（Harvard 大学）
「医学教育・指導医の養成の方策について」
第46回（1985年）J.S. Gonnella（Jefferson 医科大学）
「中国の医学教育の諸問題」
第47回（1985年）Raja Bandaranayake（New South Wales 大学）・Young Il Kim（Seoul 大学）
「Regional Teacher Training Center（Sydney）と National Teacher Training Center（Seoul）の現況」
第48回（1985年）Gordana Pavleković（Zagreb 大学）
「フィードバックと評価—その方法と実践」
第49回（1985年）Gordana Pavleković（Zagreb 大学）
「プライマリ・ヘルス・ケアとユーゴスラビア」

表 2「医学教育」特集
（第13巻第１号～第17巻第２号）

試験問題—作り方を中心として，その良否に及ぶ
創造性の教育
医師国家試験の現状と２，３の改善点
第14回日本医学教育学会大会記録
留年
筆記試験以外の評価の進め方
医学教育と行動科学
医学校における一般教育
第15回日本医学教育学会大会記録
基礎医学教育
生涯教育
教育媒体
第16回日本医学教育学会大会記録
教授—学習方法
女子医学生と女医
健康教育
第17回日本医学教育学会大会記録
医学生の Career Choice
医師国家試験の改善と今後の方向

表 3「医学教育」連載
（第13巻第１号～第17巻第３号）

保健医療要員教育カリキュラムの動向
1. 統合医学カリキュラム
2. 社会行動科学の医学教育カリキュラムの導入
3. 地域医療学および予防医学の興隆
4. 選択科目の興隆
5. 短縮医学教育カリキュラム

家庭医学教育カリキュラム
1. 学生のための指導要綱
2. レジデントのための教育要綱

教育媒体使い方シリーズ
1. 黒板・白板・模造紙・掛図
2. Note Taking
3. ピクチャーカセット
4. Simulator Model
5. CAI
6. 模型・標本・実物
7. 聴覚機器とくに心臓病診察技術の訓練における Simulator の利用
8. ビデオ学内放送
9. Written Media/プリント等